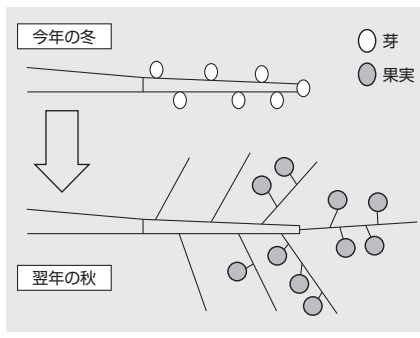


カキは昔から家庭果樹として広く利用され、庭にあるという方も多いと思います。今回はカキのせん定についてご説明します。

●カキの結果習性

今年伸びた枝の先端とその後2、3芽から、翌年花が着く枝が伸びます。このため、せん定で枝の先端を短く切ってしまうと実(花)の着く枝が出なくなってしまう。(左図参照)



●せん定期期

1〜2月に行います。

●せん定方法

せん定は間引きせん定です。基本は間引きせん定です。せん定は大きな枝から始め

ます。下向きの枝、上下に重なって同じ方向に出ている枝は影になるので一方を切ります。同じ場所から数本出ている枝は1本にします。

次に細かい部分(今年伸びた枝など)をせん定します。充実の悪い細い枝、夏から秋に伸びた枝、勢いが強過ぎて真上に伸びた枝、昨年度着果した枝(着果した痕から5芽以上あれば残しても良い)は切り落とします。枯れ枝も切りましょう。

まだ混んでいるようであれば、枝を減らして整理します。これで残った枝に栄養が行き、樹の奥まで光が当たるようになります。

●縮伐

高すぎる樹は一度に短くすると枯死の恐れがあるので、2〜3年かけて適当な枝がある位置まで計画的に切り戻します。(鈴木)

# やさしいカキのせん定

～不要な枝を間引いて整理～

## 技術 & 情報

# 人と環境にやさしく、病虫害はしっかり防除!

～生物農薬の利用について～

近年持続性の高い農業への取り組みや、より安全な農作物を消費者に提供することを目的として、化学合成農薬の代替手段の導入が進んでいます。対象の害虫を寄生や捕食によって防除する生物農薬

生物農薬とは防除手段として利用される様々な生き物を指します。今回は代表的な生物農薬として、微生物農薬と天敵農薬について紹介します。ハダニ類の防除にはスパイデックス、スパイカル

①微生物農薬

自然界に存在する微生物を利用した防除資材で、病害から予防的に作物を守るものと、感染して害虫を殺すものがあります。前者では灰色かび病・うどんこ病を対象としたボトピカ水和剤、ボトキラー水和剤などが導入されています。一般的に治療効果は小さいですが、予防的に散布することで病原菌の侵入を防ぐ効果があります。後者にはアザミウマ類などを対象としたボタニガール。

②天敵農薬

生物農薬は、化学合成農薬と比べて一般的に緩効性で、効果がやや不安定となることがあるので、散布時期など使用方法に注意し、防虫ネットや粘着板など様々な防除手段と組み合わせることで効果的な利用を心がけましょう。(野原)

(野原)